

世界で初めて育成した 九倍体完全甘ガキ品種「秋王」

果樹部

1 背景、目的

本県は全国1位の甘ガキ生産県ですが、カキの消費は減少傾向で販売単価も低迷し、生産者の経営は厳しい状況にあります。近年、消費者は果物に対しては‘種なし’などの食べやすさを重視する傾向がありますが、これまで「富有」を始め甘ガキでは種のない品種はありませんでした。

そこで、カキの消費拡大と産地活性化を図るため、大果で食味が優れ、種が極めて少ない甘ガキ品種を育成しました。

2 成果の内容、特徴

1) 「秋王」は平成13年に「富有」を種子親に「太秋」を花粉親として交配し、得られた不完全種子を胚培養することで育成した世界初の九倍体完全甘ガキ品種です(図1、2)。

注) 完全甘ガキ：種の有無・多少により成熟時に渋が残ることがある不完全甘ガキに対し、常に渋が残らない甘ガキ品種のこと。

2) 樹勢はやや強く、樹姿は開張性で「太秋」よりも主枝が開き、樹皮はやや粗くなります。発芽期は3月中旬、開花盛期は5月下旬で「富有」と同時期です。花蕾数は多く、雄花が極わずかに着生し、早期落果は多い傾向にあります(表1)。

3) 収穫期は10月中旬～11月上旬、収穫盛期は10月下旬で、「富有」よりも早く、「太秋」とほぼ同時期です(表2)。

4) 種子は極めて少なく、果重は350g程度で、果形は扁平です。糖度は約20度と高く、「太秋」に似たサクサクした食感で良食味です。同時期の「太秋」より着色良好で条紋が少なく外観が優れます(表2)。

5) 炭そ病に対する耐病性は「富有」や「太秋」と同程度です(データ略)。

3 主要なデータなど

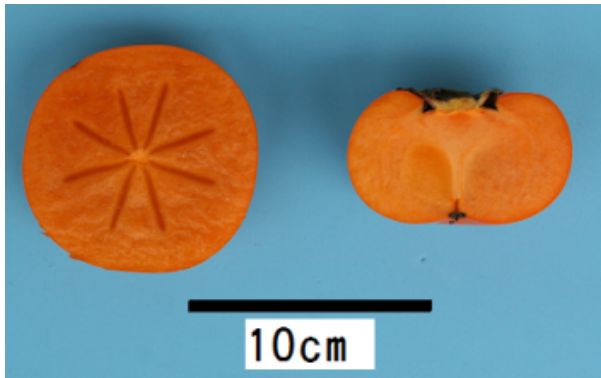


図1 「秋王」の果実外観



図2 「秋王」の結実状況

表1 「秋王」の生育特性（平成 20～22 年）

品種	発芽期	開花盛期	樹勢	樹姿	樹皮	雌雄性	早期落果
秋王	3/17	5/22	やや強	開張	やや粗	雌花および雄花	中
太秋	3/16	5/19	中	直立	中間	雌花および雄花	少
富有	3/17	5/21	強	開張	中間	雌花のみ	少

表2 「秋王」の果実品質特性（平成 20～22 年）

品種	収穫盛期	果重 (g)	果皮色(カラーチャート)			硬度 (kg)	糖度 (Brix)	種子数 (個/果)	条紋
			果頂部	赤道部	果底部				
秋王	10/21	365	5.3	5.3	5.1	1.3	19.6	極少	0.0
太秋	10/25	394	5.0	4.3	4.0	1.2	16.1	2.1	0.5
富有	11/20	287	6.2	5.5	5.6	2.0	16.4	4.7	0.0

注) 1. 果皮色はカラーチャート数値で、値が大きいほど色が濃い。
 2. 条紋は、0(無)、1(少)、2(中)、3(多)の4段階評価で、平均値で表示。